



タウンと

『310体のかかしがずらり』

8月11日、大丸公民分館（坂元正春分館長）は、横瀬の三本松交差点一帯を会場にして、『かかし祭り』を開催しました。

この『かかし祭り』は今年で3回目を迎え、昨年出品された250体のかかしと今年新しく出品された約60体のかかし、合わせて約310体のかかしが、交通安全標語や生活改善標語と一緒にずらりと会場内に並べられ、通行人の目を楽しませました。



『かぶと虫で、いざ勝負』

毎年、ミニ独立国ハナダ・ラーケ共和国（あいのさと恵誠園）が開催している『かぶと虫相撲大会』が大崎町総合体育館で行われ、約1,000人の親子連れが参加し、持ち寄った自慢のかぶと虫で勝負しました。

会場では、『相撲』、『綱渡り』、『力くらべ』、『競歩』の4種目が行われ、メインの『相撲』の部では子ども達だけでなく大人も一緒に声援を送り、会場内は大変な熱気に包まれていました。

『きもの着付大会で受賞』

7月21日、神戸市で『全日本きもの着付選手権大会』が開催され、西迫の愛甲さゆりさんが振りそでの部でアーバイン市長賞を、中郷の久保良子さんが留めそでの部で大阪府知事賞を、それぞれ手にされました。

愛甲さんと久保さんは、ともに生涯学習の着付講座に入っていて、講師の溝口千恵子さんとともに今回の受賞に大変喜んでいらっしゃいます。



愛甲さゆりさん（左から2番目）、久保良子さん（左から3番目）



『持留小通学路を草払い奉仕作業』

持留小学校の通学路のうち、持留川を渡り、永吉、下原などの集落とつながっている道路の両側に草が生い茂り、視界が悪くなっていたため、持留小学校の先生やその父兄の方々、教育委員会職員など約20人が道路沿いの草払いを実施しました。

この道路は、長年、子ども達の通学路として使われていて、現在、畑かん事業でその一帯の整備計画が進められている中、この奉仕作業できれいになった道路を子ども達は元気よく通学しています。